

| | | | | | | | | |
|-------------------|---|--|-------------|---------|------|----------|-----|----------|
| 授業科目名 | 【G】 | 教養講義(学校臨床心理学) | | 区分 | 開講年次 | 【G】1 | 単位数 | 【G】2 |
| | 【H】 | 教養講義(学校臨床心理学) | | 選択 | | 【H】1 | | 【H】2 |
| 科目区分 | 基本科目 | | | | | | | |
| 授業形態 | 対面授業 | | | | | | | |
| 担当形態 | 単 独 | | | | | | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | | | | | |
| サブタイトル | 心の健康のための心理学 | | | | 担当者 | 田中 將之 | | |
| 授業概要 | 【概要】 | <ul style="list-style-type: none"> 臨床心理学に関する代表的な研究者(例えば, Freud, Jung, Adler)の諸学説を、心理教育的観点から修得する。 グループワークなどの活動を通して実践的感性を養い、人間心理への教育的理解の深化を図る。 | | | | | | |
| | 【到達目標】 | <ul style="list-style-type: none"> 人間心理に関する多様なものの見方・捉え方を学び、今後の人生にどう活かすかのヒントを得ている。 人間関係を良好なものにするための技法の基礎を理解している。 | | | | | | |
| 履修条件 | ・ 特になし | | | | | | | |
| アクティブラーニングの方法 | 【-】 | 事前学習型 | 【-】 | 反転授業 | 【-】 | 調査学習 | 【-】 | フィールドワーク |
| | 【-】 | 双方向アンケート | 【○】 | グループワーク | 【○】 | 対話・議論型授業 | 【○】 | ロールプレイ |
| | 【-】 | プレゼンテーション | 【-】 | 模擬授業 | 【-】 | PBL | 【-】 | その他 |
| ディプロマ・ポリシーとの関連性 | DP(ディプロマ・ポリシー)① | | - (当てはまらない) | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)② | | - (当てはまらない) | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)③ | | ◎ (よく当てはまる) | | | | | |
| | DP(ディプロマ・ポリシー)④ | | - (当てはまらない) | | | | | |
| 他科目との関連性 | ・特にないが、学校に関わるという意味で、教職論、教育心理学と関連する部分はある。 | | | | | | | |
| 教科書 | ・特に、指定しない。 | | | | | | | |
| 参考書 | ・授業中にプリントを配布する。 | | | | | | | |
| 評価方法 | 授業中に指示するレポート・テスト(70%)、受講意欲・グループワーク等に取り組む姿勢・態度(30%)で評価する。なお、予告せずにノート提出を求めることがあり、それもまた評価の対象とする。 | | | | | | | |
| フィードバック方法 | レポートについては、提出期間経過後に、評価ポイントを学生に伝える。テストを行う場合は、解説を行う。 | | | | | | | |
| 評価基準 | S・A: 授業内容をよく理解しており、応用力もある、B: 授業内容を理解している、C: 最低限の基礎力を備えている、D: 基礎力が不足している、E: 基礎力が著しく不足している、F: 評価不能。欠席時数過多やテストを未受験の場合は、F評価とする。 | | | | | | | |

| 授業科目名 | 【G】 | 教養講義(学校臨床心理学) | 区 分 | 開講年次 | 【G】1 | 単位数 | 【G】2 |
|-------|---|---------------|-----|------|------|-----|------|
| | 【H】 | 教養講義(学校臨床心理学) | 選 択 | | 【H】1 | | 【H】2 |
| 授業回数 | 授業内容 | | | | | | |
| 1 | ガイダンス 臨床心理学とはどのような学問か 予習: 心理学とはどのような学問か, 予習をしておく。 復習: 臨床心理学の概要を整理し, まとめておく。 | | | | | | |
| 2 | 臨床心理学・精神医学の歴史Ⅰ - 古代ギリシア・ローマの医学 - 予習: ヒポクラテス, ガレノスの考え方を調べておく。 復習: 中世までの精神疾患の捉え方をまとめておく。 | | | | | | |
| 3 | 臨床心理学・精神医学の歴史Ⅲ - 脳科学と精神医学の発展 - 近代の精神医学の歴史について調べておく。 復習: 脳科学の発展が何をもたらしたか, 確認しておく。 | | | | | | |
| 4 | フロイトの精神分析Ⅰ - フロイトの心的局所論, 心的構造論 - 予習: 心的局所論, 心的構造論について調べておく。 復習: フロイトは心をどうとらえていたか, 確認しておく。 | | | | | | |
| 5 | フロイトの精神分析Ⅱ - 無意識(錯誤, 夢) - 予習: 無意識の現れとされるものを調べておく。 復習: 夢, 錯誤, ヒステリーについて確認しておく。 | | | | | | |
| 6 | フロイトの精神分析Ⅲ - 無意識(夢の持つ意味), 自由連想法 - 予習: 自由連想法とはどのようなものか, 調べておく。 復習: フロイトの精神分析の方法論を確認しておく。 | | | | | | |
| 7 | ユングの分析心理学Ⅰ - コンプレックス - 予習: ユングのコンプレックスに関する考え方を調べておく。 復習: 様々なコンプレックスに関する学説を確認しておく。 | | | | | | |
| 8 | ユングの分析心理学Ⅱ - フロイトとの決別と集合的無意識 - 予習: ユングが, なぜフロイトと決別したのか調べておく。 復習: フロイトとユングの学説の違いを確認しておく。 | | | | | | |
| 9 | ユングの分析心理学Ⅲ - 元型 - 予習: ユングのいう元型とは何か, 調べておく。 復習: 集合的無意識について確認しておく。 | | | | | | |
| 10 | アドラーの個人心理学Ⅰ - 自己決定論 - 予習: アドラーの自己決定論を調べておく。 復習: 環境や過去にとらわれない未来志向の心理を復習しておく。 | | | | | | |
| 11 | アドラーの個人心理学Ⅱ - アドラーは劣等感をどう捉えたか - 予習: アドラーの劣等感に対する捉え方を調べておく。 復習: 劣等感について, ポジティブな面を確認する。 | | | | | | |
| 12 | アドラーの個人心理学Ⅲ - 勇気づけとは何か - 予習: アドラーがいうところの勇気づけとは何か, 調べておく。 復習: 勇気づけの持つ意味を確認する。 | | | | | | |
| 13 | カウンセリングの技法Ⅰ - 傾聴とは何か - 予習: 傾聴の方法について調べておく。 復習: 傾聴の方法について, 確認する。 | | | | | | |
| 14 | カウンセリングの技法Ⅱ - 共感的理解の必要性 - 予習: 共感的理解とは何か, 調べておく。 復習: カウンセリングの技法の要旨を確認する。 | | | | | | |
| 15 | 本授業のまとめ テスト 予習: これまでの授業の要点について総まとめをしておく。 復習: テストで出た内容について, 再度確認をしておく。 | | | | | | |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブラーニング型授業(グループワーク等)を行う場合, 主体的な参加が求められる。 ・授業の順序, 内容については学生の反応を見極め, 変更を行う場合がある。 授業ごとの予習・復習時間は, 各120分程度を目安としてください。 | | | | | | |